

佐賀県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの調査概要  
(平成27年1月18日実施)

平成27年1月18日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、丘陵地に位置し、周囲に水田（棚田）及び雑木林がある。
- ② 農場周辺にはため池が数多く存在し、カモ類等が認められた。また、農場周辺の水田に、ミヤマガラス（冬鳥）を主とする50羽以上のカラス類の群れが確認された。
- ③ 発生農場は、肉用鶏農場で、東西に続く公道（幅約5m）を挟み、南側に6棟の開放鶏舎、北側に1棟の合計7棟（開放鶏舎）があり、発生時点で約30日齢の鶏が44,700羽飼養されていた。
- ④ 発生鶏舎は、南側西端から3棟目に位置している。

2 管理者及び従業員

- ① 発生農場は農場主及びその家族（2名）の合計3名により管理されており、繁忙時には疫学関連農場の農場主である家族が作業を手伝っている。農場主によると、各者とも直近3週間以内に海外への渡航歴はない。
- ② 農場主によると、鶏舎への出入りは、踏込み消毒槽を用いて長靴を消毒後、鶏舎内は専用の長靴に履き替えて作業をしている。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、タンク上部に蓋がなされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 給与水は、上水が鶏舎横のタンクに貯水され、鶏舎内に配水されている。タンク上部の給水口部分に小さい隙間が確認された。
- ③ 農場主によると、消石灰を降雨後、消石灰が流れた場合に散布している。
- ④ 農場主によると、車両の農場への出入りに当たっては、公道南側西端の鶏舎前に設置されている動力噴霧器を用いて車両の消毒を当該運送業者がそれぞれ実施している。
- ⑤ 農場主によると、鶏糞を含む敷料は、鶏舎からのオールアウト時に全体の2～3割を搬出しており、直近では昨年11月下旬に実施している。

4 野鳥・獣害対策

- ① 各鶏舎とも、鶏舎側面に外側から順に、網（マス目約1cm）、ロールカーテン、金網（マス目は約2cm）、透明のビニールシート（鶏が成長したため16日に撤去）が設置されている。鶏舎の前後面は、ブルーシートで覆っている。また、鶏舎間の上部に寒冷紗を張っている。
- ② 上記のような野鳥の侵入防止のための工夫はなされていたが、鶏舎の壁面等に複数の大小の穴が確認された。
- ③ 農場主によると、ネズミの対策として、鶏舎内に殺鼠剤を設置しており、鶏舎内でネズミを見かけたことがある。また、別鶏舎において過去にイタチを見かけたことがある。

5 死亡鶏の取扱い

農場主によると、通常、死亡鶏は、袋に入れ関連農場の焼却炉に持ち込み焼却している。